

教育委員会だより

第11号 (平成27年7月~平成27年9月)

発行者

池田町・養基組合教育委員会

池田町六之井1468-1

☎ 0585-45-3111 Fax 0585-45-7116

E-mail yakuba@town.gifu-ikeda.lg.jp

夏休みラジオ体操を振り返って

夏休みが始まると、各地区で「♪あたらしい朝が来た 希望の朝だ」という音楽が流れ始め、子供たちも起きてすぐ行く子が多いので、寝ぼけ眼で会場へ向かう子もよく見かける光景です。この光景は今も昔も変わりません。

今年には社会教育課職員全員で各地区の「夏休みラジオ体操」に参加させて頂きました。各地区にはそれぞれ特色があり、10数人の小さな会場もあれば、100人以上の大会場もあり、同じ町内でも地区によって随分形態がちがうという印象を受けました。どの会場にも言えることは、各世代が一同に集まってラジオ体操をすることは、その地区の連帯感を強め、子供たちが近所のおじさん、おばさんと毎日顔をあわすことによって、なんとなく顔を覚えて、道で会ってもあいさつを交わしたり、困った時には安心して声をかけられる、そんな意義も含まれているのかもしれない。

各地区のラジオ体操に参加して、もう一つ気づいた点は、ラジオ体操実施期間です。私が参加した地区では8月7日が最終日でお盆を待たずにして終了してしまいました。私が小学生の頃のラジオ体操は、夏休みいっぱいまで実施するのがあたりまえの時代で、朝が苦手な私は早くラジオ体操が終了することを願っていました。でも夏休みが終わりラジオ体操の裏のスタンプを見ると、夏休みにどれだけ頑張ったかを評価する通知表を見ているようで、来年はもっと頑張ろうという気持ちになりました。昨今はラジオ体操実施期間が短くなり、お盆前に終える地区が増えてきています。

役員の皆様をはじめ、区長さん、青少年育成委員、シニアクラブの方々にご協力して頂いているラジオ体操ですが、実施期間について、今一度ご検討していただき、子供たちのラジオ体操カードに一つでも多くスタンプが増え、努力した証も増えるようにして頂きたいと思います。



下東野地区のラジオ体操の様子 (8月19日)

全国学力・学習状況調査について

1. はじめに

4月21日に実施された全国学力・学習状況調査(小6、中3対象)の結果が届きました。各学校では、国語、算数(数学)理科の学力の面と生活・意識面の調査の結果を分析・考察しています。9月中には、保護者の皆様に学校だより等で説明をいたします。

2. 町全体の特徴と今後の課題

(1) 学力調査から

教科別では、国語A(主に知識)、同B(主に活用力)が比較的よくできており、

算数Aと理科がやや苦手という結果でした。今年度は、国語・算数ともBが向上してAとの差が小さくなっています。これは、各校が活用力の向上に課題意識をもって取り組んでいることの結果であると考えます。基礎的事項の指導を大切にしつつ、活用力の向上に継続して努めたいと考えます。

また、各教科正答率の人数分布を見ると、二つの山から三つの山に分かれています。特に正答率の低い山に入る児童生徒に対して、丁寧な指導を大切にしたいと考えます。授業において活躍できるように、また、分からないことがそのままにならないように、授業準備、展開、机間指導等の工夫配慮が学校として大切です。

(2) 学習状況調査から

小中学生とも、朝食はよく摂っており、就寝時刻も多くが決まっています。また、友達を大切にするという意識や地域の行事に積極的に参加する姿勢も良いものが見られます。家庭学習の習慣は比較的定着しており、宿題もよくできています。ただ、授業の予習・復習に当たる内容が十分ではない傾向があります。授業内容の理解を進める上でも、学習意欲づくりとしても、予習・復習の定着を図っていきたいと考えます。

テレビ・DVD・ゲーム等に時間を費やす児童生徒はやはり多く、携帯・スマホ・インターネットに時間を使う児童生徒も、増加傾向を示しています。家族と過ごす時間や睡眠時間が削られることが懸念されます。いずれも、学校とPTA・家庭が共通理解をしながら、子どもの生活改善に努めることが大事だと考えています。

教育事例発表会

～福祉教育・外国語教育～

8月1日開催 池田町中央公民館

池田町の学校は平成21年度から文科省の特例校となり英語教育に力を入れてきました。町内の各小学校では、共通のカリキュラムで、ALTや日本人の支援員、担任の先生と一緒に指導にあたり、子どもたちが英語に親しみ、進んでコミュニケーションがとれる力を育てています。また池田町では福祉教育にも力をいれていますので、合わせてその取組をも発表し、広く地域の皆様にご理解を得、また教員同士も共通理解をして研修を深め、指導に生かしています。

「午前の部」福祉教育では文部科学省の主任視学官清原洋一さんの講演と、池田町内の小中高、専門学校代表者と町理事（地域創生）の早田清宏さん、岐阜大学名誉教授の小林月子さんのパネルディスカッションと各学校の子どもの発表が行われました。一つの町が町をあげて福祉教育に力を注ぎ、継続して段階的に福祉を学び、その展望が開かれていることは池田町の大きな特長です。



福祉活動の発表をする
八幡小学校6年生の皆さん

子どもたちの発表では、お年寄りとの交流で、「聞こえる方の耳元でゆっくり大きな声でお話しをしたら笑顔で答えてくださった」ということ。

また手や足の不自由な人のために義肢や義足、車イス製作の工場を見学して、自分も何かお役に立つことをしたいと考えたこと。中学校では専門学校による特別講座があり、専門的な体験を1年生全員が体験し、その不自由さや心情を理解したこと。池田高校では地域に貢献する福祉活動が、ユネスコスクールとして岐阜県で初めて認められたことなど、町全体が福祉教育に大きく取り組んでいる様子が発表されました。子どもたちはいろいろな体験を通して、「相手を思いやる心」を育てています。

「午後の部」英語教育では各小学校における取組が楽しいゲームや歌、簡単な挨拶のやりとりで紹介されました。どの子もいきいきと元気よく発表しました。また中学生と高校生、専門学校生は英語で自分の考えたこと、感じたことを堂々と発表しました。

なお今回、県のスピーチコンテストに出場する生徒には、町として特別合宿を設けました。また今年度から広い世界を体験するため、池田中生と池田高生の海外派遣を行います。

福祉教育も外国語教育も全く別のものではなく「他者を理解する」ところで同じであると考えます。グローバルな視野を持ち、相手を思いやる心を育む子どもたちの育成を願っています。

教育長 国枝 磨須美

寺子屋学習会の様子



小学生の学習



中学生の学習

夏休み 寺子屋学習会
多くの参加、ありがとうございました
寺子屋学習会 参加者の状況

	3年生	4年生	5年生	6年生	中学生	合計
7月22日	21	13	19	13	10	76
7月23日	15	16	18	12	10	71
7月24日	13	12	12	12	10	59
8月19日	6	6	10	8	5	35
8月20日	6	6	12	3	5	32
8月21日	7	6	11	5	7	36

食物アレルギー対応研修会開催

8月19日（水）、中央公民館会議室において「学校における食物アレルギー対応研修会」を行いました。

後藤医師によるエピペンの使用方法の講習の様子



この研修会は、全国的に食物アレルギーのある児童生徒が増加していることや死亡に繋がる重大事故が発生しているため、池田町において対策を進めるうちの一环として実施しました。

受講者は町内小・中学校の教頭、養護教諭、保健主事教諭と給食センター職員の合計29名で、講師に揖斐厚生病院小児科の後藤加寿美医師を迎

え、食物アレルギーの概要、症状、対応や最新の事例などの説明を受けました。特に、有事の際には早急な判断と対応が求められるため、日頃から家庭・学校・医療機関とが情報を共有し、備えることが重要とのことでした。

最後にアレルギー反応によるアナフィラキシーショックの症状を疑う場合に使用するエピペン注射の模擬注射器を使って、受講者は注射を打つ手順を確認しました。

芸術の連鎖祭り in KIEDA

8月22日(日)、第12回芸術の連鎖祭り in KIEDAが晴れやかに開幕しました。彫刻や絵画など形ある芸術作品を、歌人が形のない言語芸術(短歌)へと変化させ、分野の異なる芸術を連鎖させる試みは、県下で郡上市に類例が見られるだけの、希有な先進的的文化行事です。

短歌大会受賞作品の展示

池田保育園5歳児の皆さん
作品の前で



この催しに先立つ5月、一般の人にも短歌に親しんでもらおうと「短歌大会」を開催しました。特に町内小中学生には学校の協力を得て短歌教室を行い、池田町の歌人組織「池田歌人」の皆さんから短歌の作り方や楽しさを教えてもらい、小学生

310首、中学生283首の応募がありました。優秀な短歌の表彰は、「芸術の連鎖祭り」オープニングセレモニーで行いました。

オープニングから9月13日(日)まで、池田町中央公民館ロビーで町内外の著名な芸術家や、未来の池田を担う池田高校生徒、中学生、保育園児などの作品・短歌33組が「対」になって展示され、多くの人に鑑賞して頂きました。最近では他地域の文芸祭等に応募、受賞する児童も多く、今後も芸術を通して文化的な人づくり・まちづくりに寄与したいと考えています。

池田町ジュニアリーダーズクラブ構想

7月18日(土)、19日(日)、池田町中央公民館多目的ホールにて、リーダー研修会「キッズ・サマーキャンプ2015 in いけだ」を開催しました。

このイベントは、毎年、池田町子ども会育成協議会・池田町青年のつどい協議会・池田町レクリエーション協会の3団体共催で行っています。異年齢集団での野外活動・自然体験活動を通して、子どもたちの自主性、協調性、社会性といった「生きる力」を育み、集団生活を楽しみながら自然とリーダーシップを発揮できる子どもを育てることを目的としています。

この研修会の対象は小学校3年生から6年生までの児童ですが、その児童たちの活動をサポートする立場として、池田中学校や池田高等学校のボランティア参加の生徒(ジュニアリーダー)、岐阜聖徳学園大学レクリエーション研究会の学生のみなさんがいます。小学生の子どもたちにとって身近な「おにいさん、おねえさん」たちが、非日常体験の中で知識や経験を生かしてお手本となるべき姿を見せることで、「サポートする立場」としての参加者「頼られる立場・見られる立場」と

して活動することで「自分でもできる」という自信と更なる成長につながる場でもあります。そして、地区の子ども会活動だけでなく、学校生活や地域活動といったあらゆる場面で、仲間や集団にとってより良いこととは何か、またそのために自分は何ができるかを考えて行動できる青少年を育てていく場でもあります。



サマーキャンプの様子
池田町中央公民館

今回の「キッズ・サマーキャンプ2015 in いけだ」では、そのような幅広い年齢層での集団生活を楽しく過ごしました。6年生の感想文の中で「ジュニアリーダーの活躍を見ていて、来年は自分も同じ立場で参加したい」といった感想が少しずつ増えてきたことは、成果の表れだと考えます。

昨年度より主に中学生を対象に「池田町ジュニアリーダーズクラブ」として、子ども会関係イベントや池田っ子まつりへのボランティア参加、その他研修会などを行っています。今後は池田中学校や池田高等学校との連携を深め、クラブとしてのあり方を確立していくとともに「誰もがリーダーとして活躍できる場所」「池田町をもっとよく知り、好きになれる場所」を目指していきたいと考えています。

平成27年度 池田町青少年育成町民大会のお知らせ

今年度の池田町青少年育成町民大会について、次のように開催します。
池田町の宝である子どもたちを健全で明るく育成するため、保護者の皆様を始め、青少年健全育成に携わっている方々等が参加して頂きますようお願い申し上げます。

- ①開催日時 平成27年11月29日(日) 午後1時～3時30分
- ②開催場所 池田町中央公民館 大ホール
- ③開催内容

《第1部》池田町青少年育成町民大会 午後1時～午後2時10分

●あいさつ

●表彰 教育委員会功労者表彰(6名)

●今年度の青少年育成活動の説明

●実践発表

中地区 テーマ「青少年活動の報告」

八幡地区 テーマ「ふれあい3世代交流の活動報告」

宮地地区 テーマ「地域と子どもをつなぐ」

カードから見えた課題ももっといい宮地にしたい」

※ 資料発表(西地区、東地区、養基地区)

●大会決議宣言

《第2部》教育講演会

午後2時20分～午後3時30分

●講師 東海学院大学大学院

客員教授 寺田 道夫氏

●演題 「子どもの心を育む」

家庭・地域の教育力 く心のアンテナ」

子どもの心や行動の特性について心理学の観点から親子関係、地域で見守る子育て関係や不登校の子どもへの心理臨床的支援、また職場へのメンタルヘルスの推進に関わる相談及び研修会講師として企業、学校、自治体などで広く活躍。

寺田臨床心理学研究所 所長&室長

座右の銘は「意欲は泉のごとく内からわき出るもの」



講演をしていただく寺田 道夫氏

教育委員会の主な活動 平成27年7月から平成27年9月

日付	活動	備考
7月 8日	いじめ対策第三者委員会 池田町・養基組合合同教育委員会	中央公民館第3会議室
7月22日	教科書採択委員会	教育センター
7月22日 ～24日	夏休み寺子屋学習	中央公民館第2・3会議室
8月 1日	福祉・外国語活動発表会	中央公民館 大ホール
8月 7日	少年の主張 岐阜県大会	可児市文化創造センター
8月19日 ～21日	夏休み寺子屋学習	中央公民館第2・3会議室
8月21日	海外研修応募者面接	中央公民館第3会議室
8月25日	初任者研修	中央公民館第3会議室
9月14日	池田町・養基組合合同教育委員会	中央公民館第3会議室

お知らせ

10月10日(土)
中央公民館大ホールにおいて「全国緑の少年団活動発表大会」が開催されます。池田町からは宮地小学校みどりの少年団が参加し「ききょう太鼓」や「般若踊り」のアトラクションが上演されます。

編集後記

「教育委員会だより」第11号を発行することができました。今号は教育委員会事務局の行っている取組などを記事を書きました。一部しか載せませんが、ご理解いただきますようお願いいたします。
編集担当 野原 正、小川 直美